

平成 30 年 1 月 30 日

第 150 回 県内企業・業況調査結果

株式会社 鹿児島銀行

株式会社 九州経済研究所

[調査要領]	
対象期間	平成 29 年 10～12 月期実績見込み 平成 30 年 1～3 月期見通し
調査時期	平成 29 年 12 月下旬
調査方法	郵送方式
対象企業	県内主要企業 500 社
回答企業数	354 社 (回答率 70.8%)
特別質問項目	鹿児島県の景気の現状などについて NHK 大河ドラマ「西郷(せご)どん」について

用語 今期＝平成 29 年 10～12 月期 来期＝平成 30 年 1～3 月期
前期＝平成 29 年 7～9 月期 前年同期＝平成 28 年 10～12 月期
D.I. ＝「良い」－「悪い」、「増加」－「減少」、いずれも回答企業割合

「調査結果のポイント」

1. 業況 D.I.

① 今期の業況～やや改善

今期は機械・金属製造業、総合建設業が大幅に下落したものの、百貨店・スーパー、食料品卸売業、食料品製造業が大幅に改善し全体で 1 となり、前期 (▲2) からやや改善した。業況 D.I. がプラス圏に浮上するのは消費税増税前に当たる平成 26 年 1～3 月期の調査以来 3 年 9 カ月ぶりとなる。

② 来期の業況見通し～やや下落

来期の見通しは▲3 と今期 (1) からやや下落する見通し。

2. 設備投資

① 今期、設備投資を実施した企業割合は 38% と、前期 (38%) と同水準だった。

② 今期の設備投資の合計金額(実額)は全産業ベースで 199 億円となり、前期比 94.8% 増となった。来期の設備投資の合計金額(実額)は全産業ベースで 156 億円となり、今期比 21.6% 減となる見通し。

3. 経営上の問題点(内部環境・外部環境)

「人手不足・求人難」を挙げる企業割合が 54% と平成 29 年 1～3 月期の調査以来 4 回連続最多となり、依然として深刻な問題となっている。

4. 鹿児島県の景気の現状などについて

本県の景気の現状について、「横ばい」と回答した企業割合が 63% と最多だった。「拡大している」「緩やかに拡大している」の合計は 28%、「緩やかに後退している」「後退している」の合計は 9% となり、D.I. は 19 と前回 (28 年 12 月) の▲10 から 29 期改善した。

5. NHK 大河ドラマ「西郷(せご)どん」について

「西郷どん」放映に関し、「期待している」企業割合は 68% に上り、何らかの取り組みに前向きな企業は 56% だった。具体的には、「新商品・新サービスの開発、販売」(47%)、「“西郷どん” キャラクターやロゴの使用、“西郷どん” を商品名にする」(39%) などが挙げられた。

1. 今期の業況 ～やや改善

今期の業況 D.I.は1となり、前期（▲2）からやや改善した（図表1）。**業況** D.I.がプラス圏に浮上するのは消費税増税前に当たる平成26年1～3月期の調査以来3年9カ月ぶりとなる。

個人消費の回復傾向がみられた百貨店・スーパー（前期25→今期60）と、好調な消費動向を背景に食料品卸売業（同▲20→0）が大幅に改善、食料品製造業（▲31→▲23）も改善した（図表2）。

一方、自動車関連の受注が減少した機械・金属製造業（同23→0）、公共、民間工事ともに一服感がみられた総合建設業（同18→0）が大幅に下落した。

業況 D.I.を業種別でみると、小売業（同5→12）が改善し、卸売業（同▲16→▲10）もマイナス圏ながら改善した。また、その他産業（同▲1→3）はプラス圏に浮上し、製造業（同▲7→▲6）がほぼ横ばいだった（図表1）。一方、建設業（同8→6）はやや下落した。

2. 来期の業況見通し ～やや下落

来期の業況見通し D.I.は▲3と今期（1）からやや下落する見通し（図表1）。

業況見通し D.I.を業種別にみると、卸売業（今期▲10→来期▲8）はやや改善、その他産業（同3→3）は今期と同水準、製造業（同▲6→▲7）はほぼ横ばいだった。一方、小売業（同12→2）は大幅に下落し、建設業（同6→▲4）も大きく下がり、マイナス圏になる見込み。

3. 設備投資 ～ 実施した企業割合は前期と同水準

今期、設備投資を実施した企業割合は38%と、前期（38%）と同水準だった（図表6、7）。

来期に設備投資を予定する企業割合は37%で、今期（38%）とほぼ横ばいとなる見込み。

今期の設備投資の合計金額(実額)は全産業ベースで199億円となり、前期比94.8%増となった（図表8）。業種別ではその他産業93億円（前期比122.0%増）が最も多く、以下、製造業が55億円（同36.1%増）、卸売業が38億円（同38倍）、小売業が10億円（同13.9%減）、建設業が3億円（同58.0%減）の順となった。

来期の設備投資の合計金額(実額)は全産業ベースで156億円となり、今期比21.6%減となる見通し。業種別では製造業58億円（同5.5%増）が最も多く、以下、その他産業が50億円（同46.2%減）、卸売業が38億円で前期と同水準、小売業が9億円（同10.0%減）、建設業が2億円（同33.3%減）の順となり、製造業だけが今期を上回る見込み。

1 社当たり設備投資の金額別構成比をみると、全産業では今期は「1千万円未満」の小口投資が全体の38%となった（図表9）。次いで「1～5千万円未満」（33%）、「5千万～1億円未満」（13%）、「1～5億円未満」（9%）と続いた。一方、来期も「1千万円未満」の割合が全体の41%と今期同様の傾向が続く見込み。

今期、業種別では卸売業で「1千万円未満」の割合が78%と大半を占めた半面、製造業（32%）、その他産業（26%）の「1千万円未満」の割合は低かった。また、10億円以上の大型投資は製造業、卸売業、その他産業で計上されている。

来期、業種別では建設業で「1千万円未満」の割合が75%となる半面、製造業（39%）、その他産業（31%）の「1千万円未満」の割合は低かった。また、10億円以上の大型投資は製造業、卸売業、その他産業で計上されている。

4. 経営上の問題点(内部環境・外部環境)

経営上の問題点(内部環境・外部環境)は、「人手不足・求人難」（54%）と回答した企業割合が最も多かった（図表10、11）。「人手不足・求人難」は平成29年1～3月期の調査以来4回連続で単独トップとなっており、依然として深刻な問題であることがうかがえる。以下、「競争激化」（45%）、「売上・受注不振」（29%）と続いた。

5. 鹿児島県の景気の現状などについて

本県の景気の現状について、「横ばい」と回答した企業割合が63%と最も多かった（図表12）。また、「拡大している」「緩やかに拡大している」と回答した企業割合の合計は28%、「緩やかに後退している」「後退している」と回答した企業割合の合計は9%となり、D.I.は19と前回（28年12月）のD.I.（▲10）から29期改善した。業種別にみても小売業や製造業をはじめ全ての業種で大きく改善した。

「拡大している」または「緩やかに拡大している」とした要因は、「外国人観光客の増加」（44%）が最も多く、次いで「個人消費の回復」（36%）、「設備投資の活発化」（30%）、「公共工事の増加」（29%）などの順となった（図表13）。

「緩やかに後退している」または「後退している」とした要因は、「個人消費の低迷」が62%と最も多く、次いで「公共工事の減少」「雇用・所得環境の悪化」「人手不足」（いずれも32%）などの順となった。

本県の景気が本格回復する時期を尋ねたところ、「平成31年以降」が24%と最も多く、次いで「平成30年後半」（23%）が続いた（図表14）。一方、「本格回復しない」は34%だった。

今後の本県の景気における懸念材料については、「人手不足」が65%と最も多く、次いで「消費税増税（8→10%）」（60%）、「個人消費の低迷」（41%）などの順となった（図表15）。

政府に対して期待する経済対策については、「地域経済振興のための施策」が51%と最も多く、次いで、「人手不足解消策」（47%）、「法人税の減税」（35%）の順となった（図表16）。

6. NHK大河ドラマ「西郷(せご)どん」について

平成30年は明治維新から150年を迎え、1月からNHK大河ドラマ「西郷どん」の放映が始まった。そこで、県内企業の「西郷どん」についての期待や取り組み状況を調査した。

「西郷どん」放映に関して、「期待している」は68%に上った（図表17）。業種別にみると、特に卸売業や小売業、その他産業で期待の高さがうかがえる。具体的には、「鹿児島県が盛り上がる」（92%）、「自社の売り上げ、来客が増える」（42%）などに期待を持っている（図表18）。一方、「期待していない」は8%、「どちらでもない」は24%だった。

「西郷どん」放映に関連する何らかの取り組み状況について、前向きな企業（「取り組んでいる」と「現在は取り組んでいないが、今後取り組みたいと考えている」の計）は56%、「現在実施しておらず、今後も実施する予定はない」は44%だった（図表19）。具体的な取り組み内容は、「新商品・新サービスの開発、販売」が47%と最も多く、次いで「“西郷どん”キャラクターやロゴの使用、“西郷どん”を商品名にする」（39%）、「県内外でのイベント開催、参加」（24%）と続いた（図表20）。一方で、「西郷どん」放映に関して期待しない理由、何も取り組まない理由は、「業種的に関連が無い」（66%）、「良い影響はありそうだが優先順位が低い」（21%）、「具体的な取り組み方法が分からない」「一過性のブームに終わりそう」（いずれも10%）などが挙げられた（図表21）。

以 上

【本件に関するお問い合わせ】

榊九州経済研究所（TEL 099-225-7491）

《資料編》

第150回県内企業・業況調査結果集計表

図表1 各項目D. I.

単位：%

状況 項目	平成29年7～9月期				平成29年10～12月期					平成30年1～3月期				
	前期 実績				今期 実績					来期 見通し				
	良い 増加 (A)	普通 同程度 (B)	悪い 減少 (C)	D. I. (A)-(C)	良い 増加 (A)	普通 同程度 (B)	悪い 減少 (C)	D. I. (A)-(C)	差 (今期-前期)	良い 増加 (A)	普通 同程度 (B)	悪い 減少 (C)	D. I. (A)-(C)	差 (来期-今期)
自社の業況	18	62	20	▲2	19	63	18	↑ 1	(3)	13	71	16	↓ ▲3	(▲4)
製造業	21	51	28	▲7	18	58	24	↑ ▲6	(1)	14	65	21	↓ ▲7	(▲1)
建設業	19	70	11	8	16	74	10	↓ ▲6	(▲2)	6	84	10	↓ ▲4	(▲10)
卸売業	10	64	26	▲16	15	60	25	↑ ▲10	(6)	8	76	16	↑ ▲8	(2)
小売業	19	67	14	5	26	60	14	↑ 12	(7)	18	66	16	↓ 2	(▲10)
その他産業	16	67	17	▲1	19	65	16	↑ 3	(4)	15	73	12	- 3	(0)
生産高(製造業)	22	56	22	0	30	45	25	↑ 5	(5)	24	57	19	- 5	(0)
売上・完工高	26	50	24	2	29	46	25	↑ 4	(2)	20	63	17	↓ 3	(▲1)
製造業	21	49	30	▲9	33	37	30	↑ 3	(12)	25	53	22	- 3	(0)
建設業	28	56	16	12	24	54	22	↓ 2	(▲10)	20	62	18	- 2	(0)
卸売業	10	60	30	▲20	26	46	28	↑ ▲2	(18)	11	78	11	↑ 0	(2)
小売業	39	47	14	25	29	53	18	↓ 11	(▲14)	16	74	10	↓ 6	(▲5)
その他産業	30	46	24	6	29	46	25	↓ 4	(▲2)	22	61	17	↑ 5	(1)
製品・商品在庫 (適正水準比)	過剰 7	適正 86	不足 7	0	過剰 8	適正 85	不足 7	↑ 1	1					
製造業	12	77	11	1	10	79	11	↓ ▲1	▲2					
建設業	3	87	10	▲7	7	90	3	↑ ▲4	11					
卸売業	5	92	3	2	8	87	5	↑ 3	1					
小売業	13	85	2	11	17	76	7	↓ 10	▲1					
その他産業	1	95	4	▲3	2	94	4	↑ ▲2	1					
損益	好転 23	横ばい 53	悪化 24	▲1	好転 20	横ばい 55	悪化 25	↓ ▲5	(▲4)	好転 12	横ばい 71	悪化 17	- ▲5	(0)
製造業	24	48	28	▲4	19	47	34	↓ ▲15	(▲11)	16	58	26	↑ ▲10	(5)
建設業	21	65	14	7	14	66	20	↓ ▲6	(▲13)	4	78	18	↓ ▲14	(▲8)
卸売業	18	55	27	▲9	23	50	27	↑ ▲4	(5)	8	82	10	↑ ▲2	(2)
小売業	27	51	22	5	25	59	16	↑ 9	(4)	10	80	10	↓ 0	(▲9)
その他産業	24	50	26	▲2	22	57	21	↑ 1	(3)	15	73	12	↑ 3	(2)
販売価格	上昇 14	横ばい 76	低下 10	4	上昇 18	横ばい 75	低下 7	↑ 11	(7)	上昇 15	横ばい 78	低下 7	↓ 8	(▲3)
製造業	11	76	13	▲2	13	80	7	↑ 6	(8)	10	81	9	↓ 1	(▲5)
建設業	22	74	4	18	20	74	6	↓ 14	(▲4)	18	78	4	- 14	(0)
卸売業	18	69	13	5	29	63	8	↑ 21	(16)	25	67	8	↓ 17	(▲4)
小売業	11	85	4	7	21	69	10	↑ 11	(4)	17	74	9	↓ 8	(▲3)
その他産業	11	77	12	▲1	15	80	5	↑ 10	(11)	13	83	4	↓ 9	(▲1)
仕入価格	上昇 25	横ばい 72	低下 3	22	上昇 39	横ばい 60	低下 1	↑ 38	(16)	上昇 34	横ばい 65	低下 1	↓ 33	(▲5)
製造業	25	72	3	22	40	58	2	↑ 38	(16)	31	68	1	↓ 30	(▲8)
建設業	25	75	0	25	35	65	0	↑ 35	(10)	35	65	0	- 35	(0)
卸売業	28	67	5	23	41	59	0	↑ 41	(18)	36	61	3	↓ 33	(▲8)
小売業	21	79	0	21	36	62	2	↑ 34	(13)	28	70	2	↓ 26	(▲8)
その他産業	25	71	4	21	39	61	0	↑ 39	(18)	40	60	0	↑ 40	(1)
資金繰り	楽 11	普通 78	窮屈 11	0	楽 11	普通 79	窮屈 10	↑ 1	(1)	楽 10	普通 79	窮屈 11	↓ ▲1	(▲2)
製造業	10	78	12	▲2	14	75	11	↑ 3	(5)	12	78	10	↓ 2	(▲1)
建設業	19	72	9	10	14	72	14	↓ 0	(▲10)	14	70	16	↓ ▲2	(▲2)
卸売業	3	90	7	▲4	3	87	10	↓ ▲7	(▲3)	3	89	8	↑ ▲5	(2)
小売業	8	82	10	▲2	6	84	10	↓ ▲4	(▲2)	6	82	12	↓ ▲6	(▲2)
その他産業	10	79	11	▲1	12	80	8	↑ 4	(5)	11	81	8	↓ 3	(▲1)
雇用人員	過剰 3	適正 55	不足 42	▲39	過剰 2	適正 52	不足 46	↓ ▲44	(▲5)	過剰 2	適正 50	不足 48	↓ ▲46	(▲2)
製造業	6	54	40	▲34	3	52	45	↓ ▲42	(▲8)	4	49	47	↓ ▲43	(▲1)
建設業	2	40	58	▲56	0	36	64	↓ ▲64	(▲8)	0	38	62	↑ ▲62	(2)
卸売業	3	80	17	▲14	5	75	20	↓ ▲15	(▲1)	5	71	24	↓ ▲19	(▲4)
小売業	2	55	43	▲41	2	48	50	↓ ▲48	(▲7)	2	42	56	↓ ▲54	(▲6)
その他産業	0	55	45	▲45	2	50	48	↓ ▲46	(▲1)	1	51	48	↓ ▲47	(▲1)

図表2 業況D.I.(中分類)

	29年7~9月期		29年10~12月期		30年1~3月期	
	前期	今期実績	差(今期-前期)	来期見通し	差(来期-今期)	
全業種	▲ 2	1	3	▲ 3	▲ 4	
製造業	▲ 7	▲ 6	1	▲ 7	▲ 1	
食料品	▲ 31	▲ 23	8	▲ 24	▲ 1	
繊維	0	33	33	0	▲ 33	
木材	43	17	▲ 26	▲ 17	▲ 34	
紙・パルプ	0	0	0	0	0	
窯業・土石	11	0	▲ 11	0	0	
機械・金属	23	0	▲ 23	7	7	
電機・電子	34	31	▲ 3	23	▲ 8	
その他	▲ 43	▲ 17	26	16	33	
建設業	8	6	▲ 2	▲ 4	▲ 10	
土木	19	15	▲ 4	7	▲ 8	
建築	▲ 6	▲ 8	▲ 2	0	8	
総合建設	18	0	▲ 18	▲ 8	▲ 8	
その他	8	16	8	▲ 17	▲ 33	
卸売業	▲ 16	▲ 10	6	▲ 8	2	
食料品	▲ 20	0	20	0	0	
建設資材	▲ 20	▲ 30	▲ 10	▲ 20	10	
家電卸売	0	0	0	0	0	
その他	▲ 8	▲ 8	0	▲ 9	▲ 1	
小売業	5	12	7	2	▲ 10	
百貨店・スーパー	25	60	35	20	▲ 40	
衣料品	▲ 100	0	100	▲ 50	▲ 50	
自動車	0	0	0	12	12	
家電製品	33	0	▲ 33	▲ 50	▲ 50	
石油・ガス	▲ 15	0	15	▲ 12	▲ 12	
その他	11	0	▲ 11	5	5	
その他産業	▲ 1	3	4	3	0	
旅館・ホテル	13	5	▲ 8	35	30	
運輸・通信	▲ 10	▲ 5	5	▲ 9	▲ 4	
外食	15	0	▲ 15	0	0	
その他サービス	▲ 5	▲ 2	3	▲ 7	▲ 5	

図表3 売上・完工高D.I.(中分類)

	29年7~9月期		29年10~12月期		30年1~3月期	
	前期	今期実績	差(今期-前期)	来期見通し	差(来期-今期)	
全業種	2	4	2	3	▲ 1	
製造業	▲ 9	3	12	3	0	
食料品	▲ 29	▲ 10	19	▲ 6	4	
繊維	0	34	34	0	▲ 34	
木材	15	33	18	▲ 17	▲ 50	
紙・パルプ	67	100	33	100	0	
窯業・土石	▲ 12	▲ 24	12	0	24	
機械・金属	8	7	▲ 1	14	7	
電機・電子	36	49	13	33	▲ 16	
その他	▲ 29	▲ 33	▲ 4	0	33	
建設業	12	2	▲ 10	2	0	
土木	25	▲ 8	▲ 33	0	8	
建築	▲ 6	▲ 9	▲ 3	▲ 8	1	
総合建設	27	▲ 8	▲ 35	16	24	
その他	8	33	25	0	▲ 33	
卸売業	▲ 20	▲ 2	18	0	2	
食料品	▲ 38	12	50	13	1	
建設資材	▲ 10	▲ 30	▲ 20	▲ 11	19	
家電卸売	0	0	0	0	0	
その他	▲ 8	0	8	▲ 9	▲ 9	
小売業	25	11	▲ 14	6	▲ 5	
百貨店・スーパー	33	60	27	10	▲ 50	
衣料品	▲ 50	0	50	0	0	
自動車	50	0	▲ 50	▲ 13	▲ 13	
家電製品	0	▲ 50	▲ 50	0	50	
石油・ガス	14	12	▲ 2	25	13	
その他	27	▲ 5	▲ 32	5	10	
その他産業	6	4	▲ 2	5	1	
旅館・ホテル	19	0	▲ 19	29	29	
運輸・通信	16	19	3	5	▲ 14	
外食	29	0	▲ 29	▲ 15	▲ 15	
その他サービス	▲ 3	▲ 3	0	▲ 6	▲ 3	

図表4 損益D.I.(中分類)

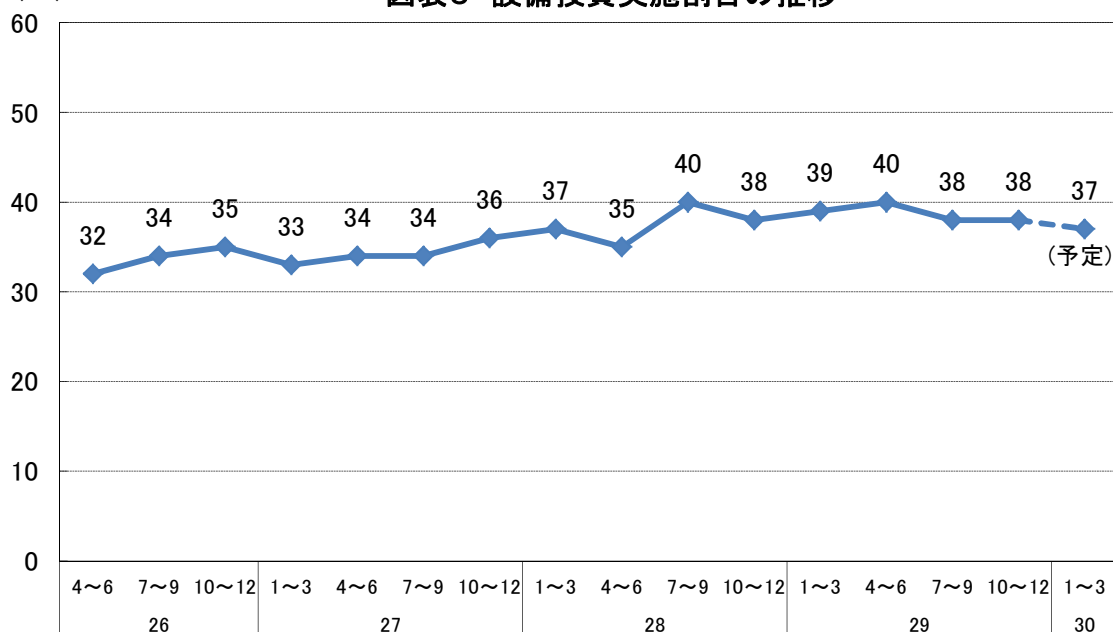
	29年7~9月期	29年10~12月期		30年1~3月期	
	前期	今期実績	差(今期-前期)	来期見通し	差(来期-今期)
全業種	▲ 1	▲ 5	▲ 4	▲ 5	0
製造業	▲ 4	▲ 15	▲ 11	▲ 10	5
食料品	▲ 32	▲ 37	▲ 5	▲ 19	18
繊維	33	67	34	▲ 33	▲ 100
木材	29	33	4	▲ 17	▲ 50
紙・パルプ	34	100	66	100	0
窯業・土石	12	▲ 24	▲ 36	▲ 12	12
機械・金属	8	0	▲ 8	▲ 8	▲ 8
電機・電子	46	16	▲ 30	8	▲ 8
その他	▲ 15	▲ 33	▲ 18	16	49
建設業	7	▲ 6	▲ 13	▲ 14	▲ 8
土木	25	▲ 8	▲ 33	7	15
建築	▲ 16	▲ 17	▲ 1	▲ 17	0
総合建設	18	▲ 17	▲ 35	▲ 27	▲ 10
その他	8	16	8	▲ 25	▲ 41
卸売業	▲ 9	▲ 4	5	▲ 2	2
食料品	▲ 18	5	23	6	1
建設資材	▲ 10	▲ 30	▲ 20	▲ 10	20
家電卸売	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	▲ 9	▲ 9
小売業	5	9	4	0	▲ 9
百貨店・スーパー	0	40	40	0	▲ 40
衣料品	▲ 50	0	50	0	0
自動車	24	▲ 12	▲ 36	▲ 14	▲ 2
家電製品	0	0	0	0	0
石油・ガス	0	12	12	0	▲ 12
その他	10	0	▲ 10	6	6
その他産業	▲ 2	1	3	3	2
旅館・ホテル	14	11	▲ 3	35	24
運輸・通信	▲ 25	▲ 5	20	▲ 10	▲ 5
外食	43	▲ 29	▲ 72	▲ 43	▲ 14
その他サービス	▲ 4	▲ 2	2	0	2

図表5 資金繰りD.I.(中分類)

	29年7~9月期	29年10~12月期		30年1~3月期	
	前期	今期実績	差(今期-前期)	来期見通し	差(来期-今期)
全業種	0	1	1	▲ 1	▲ 2
製造業	▲ 2	3	5	2	▲ 1
食料品	▲ 4	0	4	2	2
繊維	33	67	34	33	▲ 34
木材	▲ 14	0	14	0	0
紙・パルプ	33	0	▲ 33	0	0
窯業・土石	▲ 11	▲ 13	▲ 2	▲ 13	0
機械・金属	0	0	0	▲ 6	▲ 6
電機・電子	0	25	25	25	0
その他	0	▲ 17	▲ 17	▲ 17	0
建設業	10	0	▲ 10	▲ 2	▲ 2
土木	6	0	6	0	0
建築	28	9	▲ 19	17	8
総合建設	▲ 9	▲ 17	▲ 8	▲ 25	▲ 8
その他	8	8	0	0	▲ 8
卸売業	▲ 4	▲ 7	▲ 3	▲ 5	2
食料品	▲ 6	▲ 12	▲ 6	0	12
建設資材	▲ 10	▲ 10	0	▲ 10	0
家電卸売	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	▲ 9	▲ 9
小売業	▲ 2	▲ 4	▲ 2	▲ 6	▲ 2
百貨店・スーパー	0	0	0	0	0
衣料品	▲ 100	▲ 100	0	▲ 100	0
自動車	▲ 14	▲ 14	0	▲ 14	0
家電製品	0	0	0	▲ 100	▲ 100
石油・ガス	29	13	▲ 16	13	0
その他	0	0	0	5	5
その他産業	▲ 1	4	5	3	▲ 1
旅館・ホテル	0	6	6	18	12
運輸・通信	▲ 5	0	5	▲ 9	▲ 9
外食	29	▲ 14	▲ 43	▲ 14	0
その他サービス	▲ 4	6	10	4	▲ 2

(%)

図表6 設備投資実施割合の推移



図表7 設備投資

単位: %

		全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業	
29年10月～12月 (今期実績)	実施した	38	44	29	28	40	39	
	投資目的	設備の維持・更新	77	78	77	90	78	73
		生産・販売能力増強	34	36	23	20	33	39
		省力化・合理化・省エネ	22	24	15	0	22	27
		新製品等の研究開発	8	18	0	10	0	2
		経営多角化	5	4	8	20	6	0
		その他	6	4	8	0	11	7
	実施しなかった	62	56	71	72	60	61	
30年1～3月 (来期見通し)	実施予定	37	51	20	22	29	41	
	投資目的	設備の維持・更新	77	82	80	71	69	73
		生産・販売能力増強	31	33	20	29	39	30
		省力化・合理化・省エネ	22	29	20	29	15	15
		新製品等の研究開発	6	10	0	0	0	5
		経営多角化	5	4	0	14	8	5
		その他	6	0	10	0	15	10
	実施予定なし	63	49	80	78	71	59	

(注) 計数は構成割合、投資目的は複数回答。

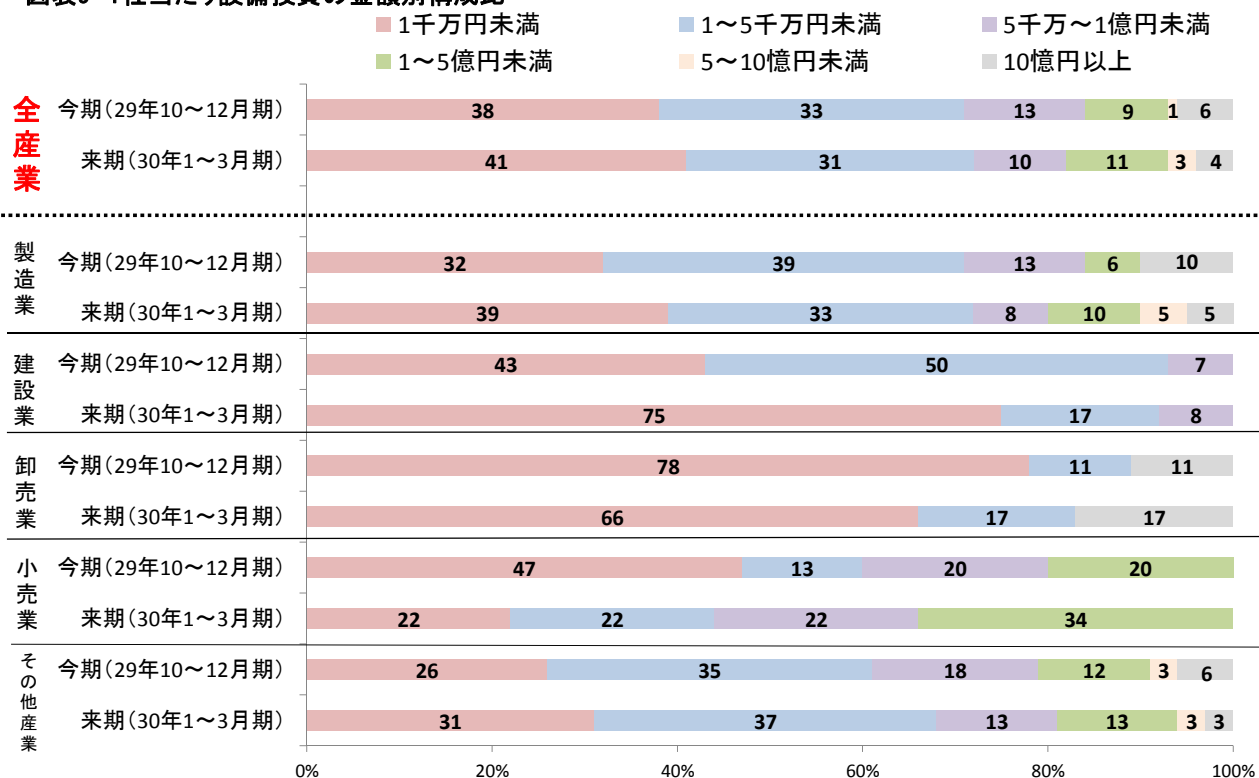
図表8 設備投資の合計金額(実額)

(単位：億円、%)

	全産業					
	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業	
前期(29年7～9月期)	102	40	7	1	12	42
今期(29年10～12月期)	199	55	3	38	10	93
来期(30年1～3月期)	156	58	2	38	9	50
今期増減率	94.8	36.1	▲ 58.0	38倍	▲ 13.9	122.0
来期増減率	▲ 21.6	5.5	▲ 33.3	0.0	▲ 10.0	▲ 46.2

注) 回答企業の単純合計により算出している。

図表9 1社当たり設備投資の金額別構成比



※図表8,9の標本数

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業
前期	155	54	25	12	18	46
今期	103	31	14	9	15	34
来期	96	39	11	6	8	32

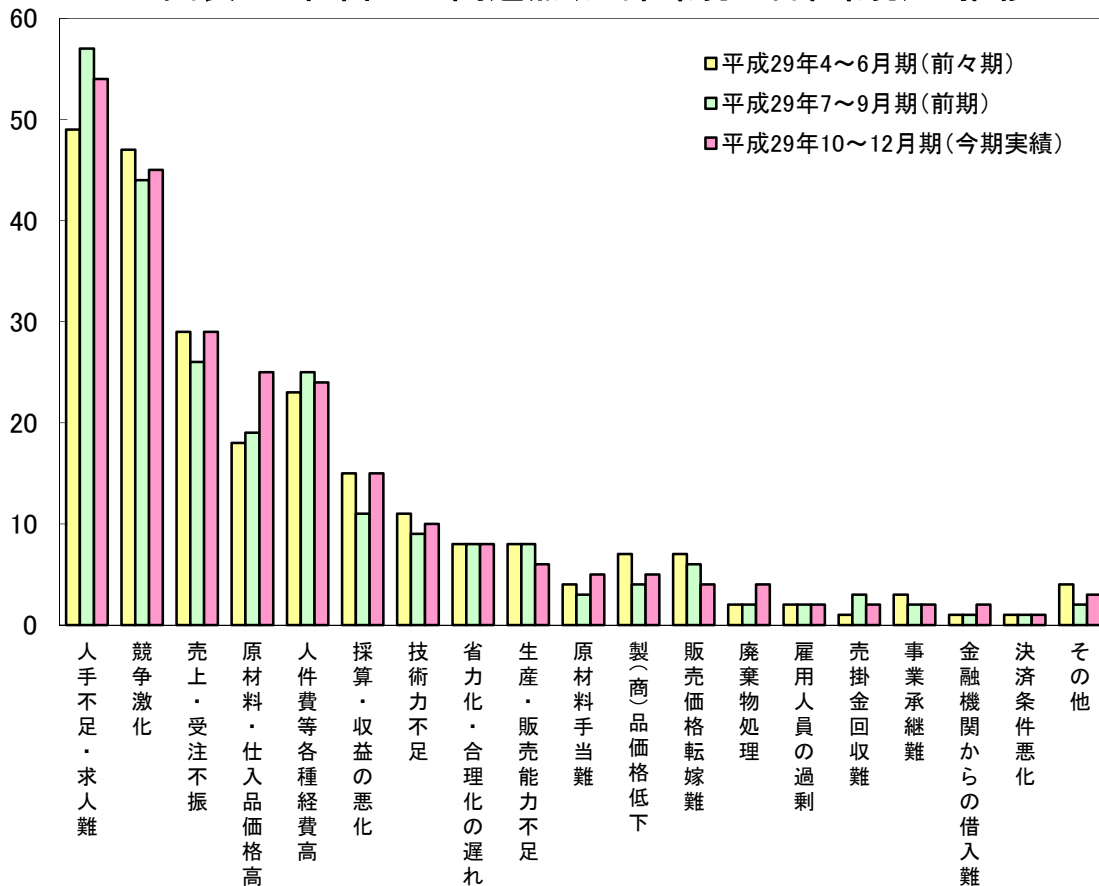
図表10 経営上の問題点(内部環境・外部環境)

単位: %

	全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業
人手不足・求人難	54	49	76	31	60	54
競争激化	45	28	51	49	68	46
売上(受注)不振	29	33	31	23	24	29
原材料(仕入品)価格高	25	32	14	28	18	25
人件費等各種経費高	24	19	14	15	36	31
採算・収益の悪化	15	15	18	18	10	13
技術力不足	10	10	16	8	8	8
省力化・合理化の遅れ	8	13	2	3	4	11
生産(販売)能力不足	6	6	8	3	10	4
原材料手当難	5	11	4	5	2	0
製(商)品価格低下	5	10	0	10	2	1
販売価格転嫁難	4	9	2	3	2	3
廃棄物処理(含むコスト増)	4	6	4	0	4	3
雇用人員の過剰	2	4	0	3	2	1
売掛金回収難	2	2	0	8	0	2
事業承継難	2	3	2	0	0	3
金融機関からの借入難	2	3	0	0	0	2
決済条件悪化	1	1	0	3	0	0
その他	3	2	2	8	0	4

(注)複数回答

(%) 図表11 経営上の問題点(内部環境・外部環境)の推移



【鹿児島県の景気の現状などについて】 n = 351

図表 12 本県の景気の現状

(単位:%)

	全産業					
	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業	
拡大している	3	4	0	2	0	5
緩やかに拡大している	25	29	28	13	27	23
横ばい	63	53	64	72	67	65
緩やかに後退している	8	11	8	13	6	6
後退している	1	3	0	0	0	1
D.I.(今回:29年12月) (A)	19	19	20	2	21	21
D.I.(前回:28年12月) (B)	▲ 10	▲ 11	▲ 3	▲ 10	▲ 17	▲ 6
増減 (A)－(B)	29	30	23	12	38	27

図表 13 景気の拡大要因・後退要因 (複数回答)

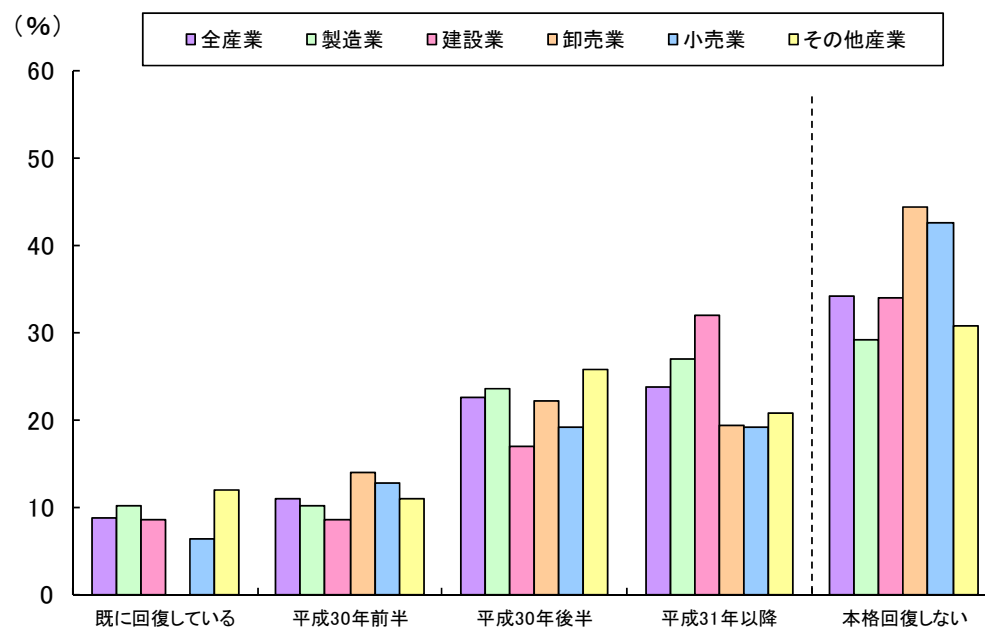
(単位:%)

		全産業					
		製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業	
拡大要因	外国人観光客の増加	44	44	21	33	39	60
	個人消費の回復	36	47	14	17	31	40
	設備投資の活発化	30	29	36	50	31	23
	公共工事の増加	29	27	50	0	46	20
	雇用・所得環境の改善	22	32	21	0	23	13
	住宅投資の活発化	14	12	21	33	23	7
	為替・株式動向	10	15	14	0	0	10
	補正予算などの政策効果	6	9	7	17	8	0
	中国など新興国の経済回復	3	0	0	0	0	10
	熊本地震の復興需要	3	3	0	17	0	3
	注1 欧米など先進国の経済回復	1	3	0	0	0	0
	その他	8	9	7	17	8	7
後退要因	個人消費の低迷	62	64	0	80	100	63
	公共工事の減少	32	29	100	20	33	13
	雇用・所得環境の悪化	32	29	25	20	33	50
	人手不足	32	29	0	20	33	63
	政策効果の息切れ	9	14	0	0	33	0
	設備投資の落ち込み	9	0	0	20	0	25
	熊本地震の影響の長期化	3	0	0	0	0	13
	住宅投資の減速	0	0	0	0	0	0
	為替・株式動向	0	0	0	0	0	0
	注2 欧米など先進国経済の減速	0	0	0	0	0	0
	中国など新興国経済の減速	0	0	0	0	0	0
	その他	9	7	0	20	33	0

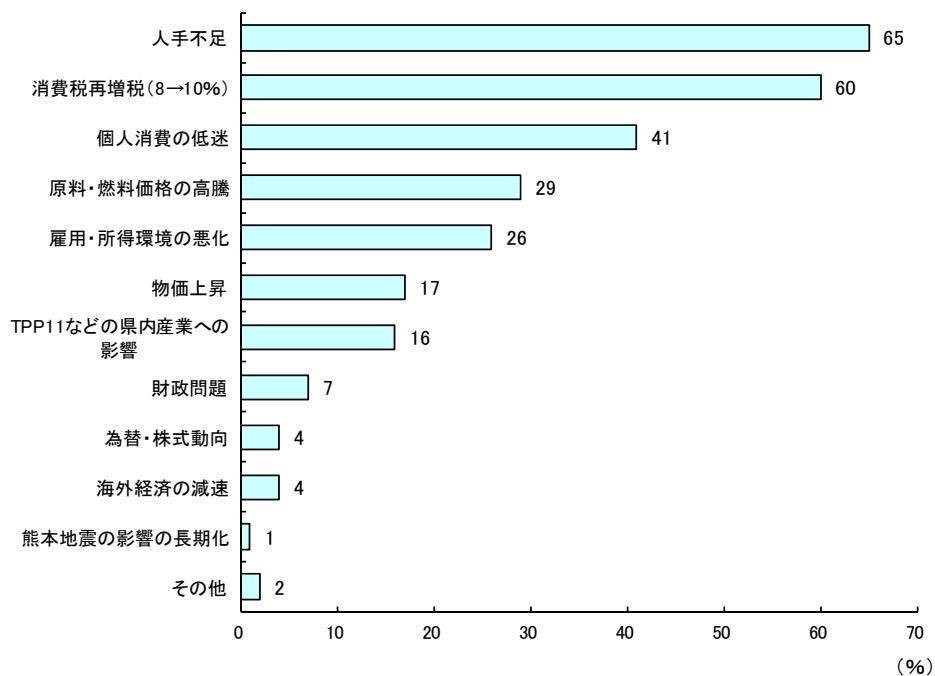
注1)「拡大している」「緩やかに拡大している」と答えた企業のみ回答。

注2)「緩やかに後退している」「後退している」と答えた企業のみ回答。

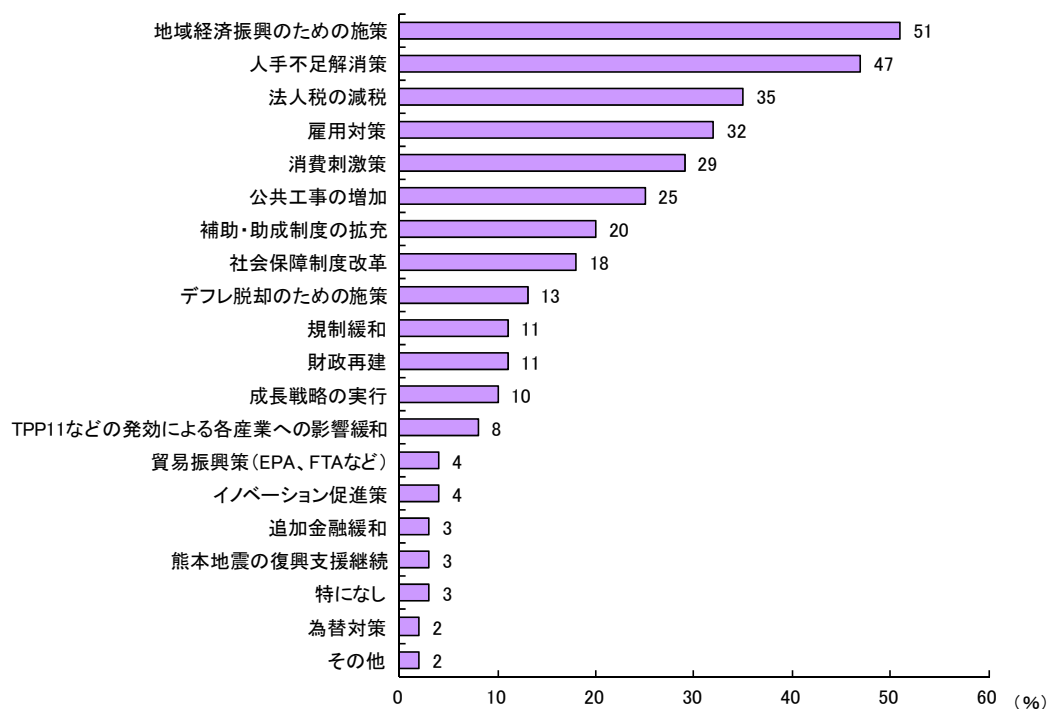
図表 14 景気が本格回復する時期



図表 15 今後の懸念材料（複数回答）

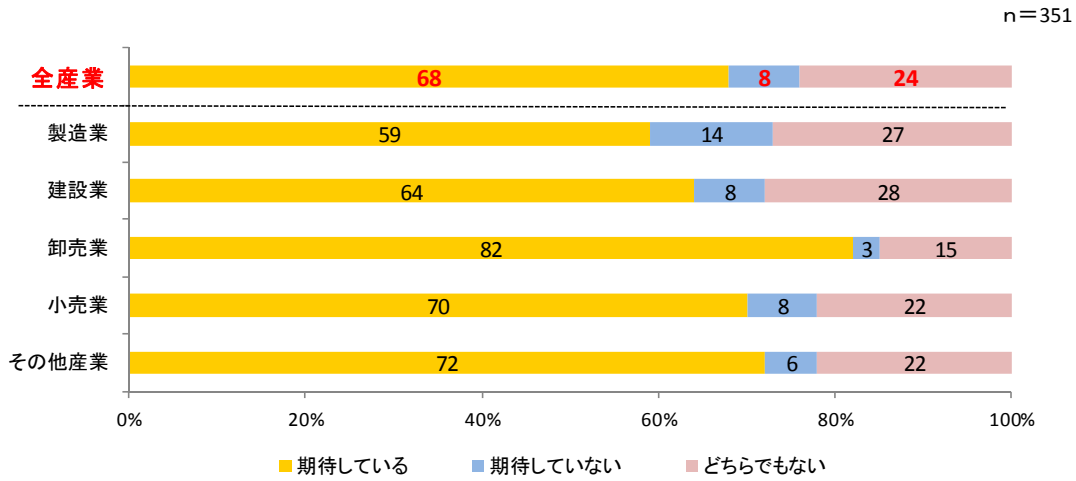


図表 16 政府に対して期待する経済対策（複数回答）

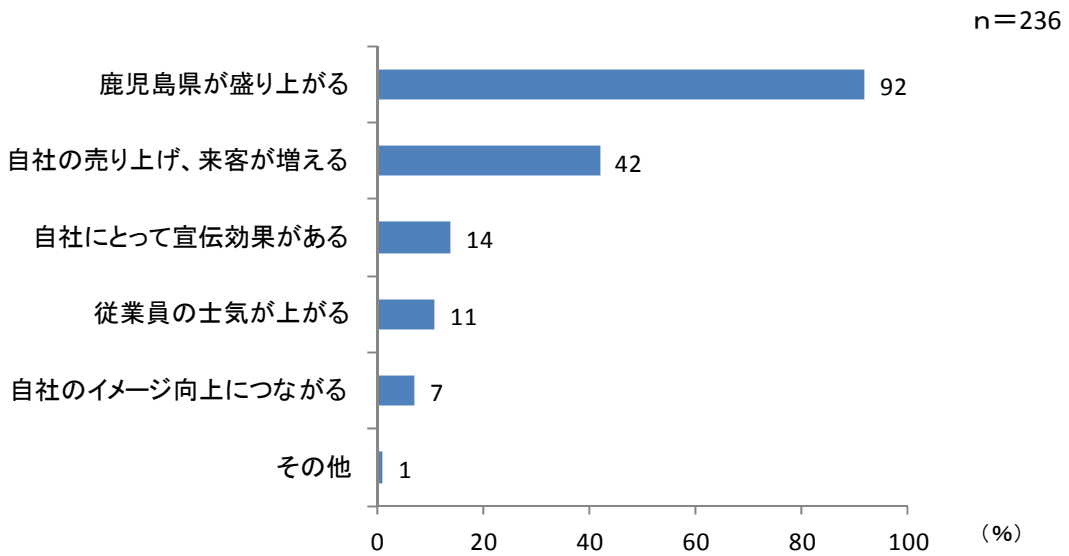


【NHK大河ドラマ「西郷（せご）どんについて】

図表 17 「西郷どん」放映への期待の有無

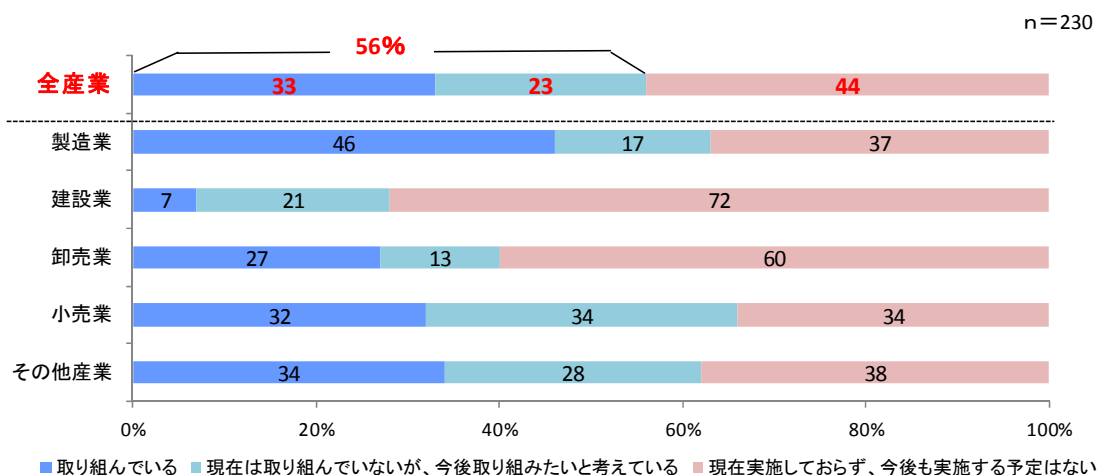


図表 18 どのような期待を持っているか

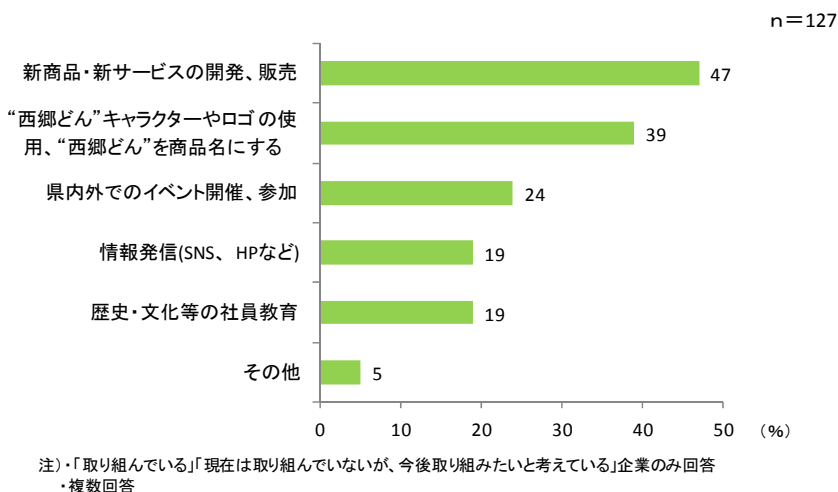


注)・「期待している」企業のみ回答
・複数回答

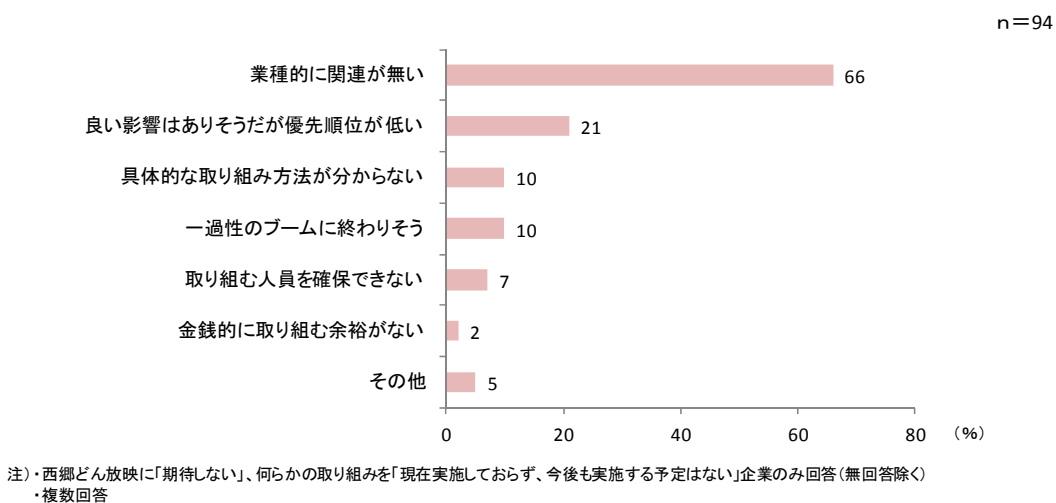
図表 19 「西郷どん」放映に関連する何らかの取り組み状況



図表 20 具体的な取り組み内容



図表 21 「西郷どん」放映に関して期待しない理由、何も取り組まない理由



(参考)

回答率

	対象企業数	回答企業数	回答率(%)
製造業	147	103	70.1
食料品	77	51	66.2
繊維	3	3	100.0
木材	8	6	75.0
紙・パルプ	3	1	33.3
窯業・土石	12	8	66.7
機械・金属	19	15	78.9
電機・電子	15	13	86.7
その他	10	6	60.0
非製造業計	353	251	71.1
建設業	75	50	66.7
土木	21	14	66.7
建築	23	12	52.2
総合建設	15	12	80.0
その他	16	12	75.0
卸売業	51	40	78.4
食料品	21	17	81.0
建設資材	11	10	90.9
家電卸売	3	1	33.3
その他	16	12	75.0
小売業	82	50	61.0
百貨店・スーパー	18	10	55.6
衣料品	4	2	50.0
自動車	15	8	53.3
家電製品	4	2	50.0
石油・ガス	8	8	100.0
その他	33	20	60.6
その他産業	145	111	76.6
旅館・ホテル	22	17	77.3
運輸	30	21	70.0
外食	11	7	63.6
サービス	72	57	79.2
農林水産	10	9	90.0
合計(製造+非製造)	500	354	70.8

業況D. I. の推移

			全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業
18年	10~12	月期	▲ 27	▲ 24	▲ 33	▲ 30	▲ 54	▲ 11
19年	1~3	〃	▲ 24	▲ 19	▲ 27	▲ 35	▲ 52	▲ 5
	4~6	〃	▲ 32	▲ 31	▲ 33	▲ 38	▲ 44	▲ 19
	7~9	〃	▲ 38	▲ 45	▲ 31	▲ 41	▲ 51	▲ 19
	10~12	〃	▲ 33	▲ 32	▲ 49	▲ 22	▲ 54	▲ 19
20年	1~3	〃	▲ 34	▲ 26	▲ 49	▲ 32	▲ 52	▲ 26
	4~6	〃	▲ 46	▲ 45	▲ 66	▲ 42	▲ 63	▲ 29
	7~9	〃	▲ 51	▲ 42	▲ 68	▲ 56	▲ 74	▲ 38
	10~12	〃	▲ 51	▲ 42	▲ 66	▲ 48	▲ 76	▲ 39
21年	1~3	〃	▲ 53	▲ 48	▲ 63	▲ 38	▲ 71	▲ 45
	4~6	〃	▲ 56	▲ 59	▲ 65	▲ 42	▲ 63	▲ 48
	7~9	〃	▲ 46	▲ 45	▲ 53	▲ 38	▲ 42	▲ 49
	10~12	〃	▲ 43	▲ 33	▲ 45	▲ 56	▲ 50	▲ 43
22年	1~3	〃	▲ 36	▲ 29	▲ 43	▲ 37	▲ 35	▲ 38
	4~6	〃	▲ 40	▲ 30	▲ 46	▲ 48	▲ 46	▲ 41
	7~9	〃	▲ 42	▲ 41	▲ 59	▲ 42	▲ 39	▲ 41
	10~12	〃	▲ 34	▲ 23	▲ 46	▲ 31	▲ 50	▲ 32
23年	1~3	〃	▲ 31	▲ 30	▲ 33	▲ 21	▲ 30	▲ 37
	4~6	〃	▲ 29	▲ 22	▲ 44	▲ 55	▲ 25	▲ 17
	7~9	〃	▲ 30	▲ 29	▲ 41	▲ 31	▲ 46	▲ 19
	10~12	〃	▲ 20	▲ 19	▲ 36	▲ 21	▲ 37	▲ 3
24年	1~3	〃	▲ 19	▲ 23	▲ 25	▲ 14	▲ 32	▲ 9
	4~6	〃	▲ 25	▲ 22	▲ 45	▲ 20	▲ 42	▲ 13
	7~9	〃	▲ 28	▲ 32	▲ 26	▲ 28	▲ 31	▲ 26
	10~12	〃	▲ 23	▲ 23	▲ 20	▲ 13	▲ 40	▲ 20
25年	1~3	〃	▲ 21	▲ 34	▲ 4	▲ 29	▲ 21	▲ 15
	4~6	〃	▲ 16	▲ 27	▲ 6	▲ 17	▲ 31	▲ 3
	7~9	〃	▲ 10	▲ 20	▲ 4	▲ 7	▲ 15	▲ 7
	10~12	〃	▲ 4	▲ 14	▲ 21	▲ 0	▲ 9	▲ 4
26年	1~3	〃	▲ 7	▲ 4	▲ 32	▲ 7	▲ 10	▲ 1
	4~6	〃	▲ 15	▲ 17	▲ 14	▲ 25	▲ 37	▲ 1
	7~9	〃	▲ 14	▲ 20	▲ 1	▲ 17	▲ 31	▲ 9
	10~12	〃	▲ 10	▲ 9	▲ 11	▲ 30	▲ 35	▲ 2
27年	1~3	〃	▲ 13	▲ 16	▲ 3	▲ 24	▲ 23	▲ 11
	4~6	〃	▲ 20	▲ 29	▲ 17	▲ 25	▲ 37	▲ 7
	7~9	〃	▲ 17	▲ 25	▲ 17	▲ 5	▲ 24	▲ 12
	10~12	〃	▲ 10	▲ 16	▲ 2	▲ 15	▲ 24	▲ 1
28年	1~3	〃	▲ 7	▲ 17	▲ 6	▲ 24	▲ 16	▲ 5
	4~6	〃	▲ 18	▲ 25	▲ 4	▲ 5	▲ 17	▲ 28
	7~9	〃	▲ 11	▲ 19	▲ 6	▲ 9	▲ 31	▲ 5
	10~12	〃	▲ 10	▲ 6	▲ 4	▲ 12	▲ 13	▲ 11
29年	1~3	〃	▲ 10	▲ 25	▲ 15	▲ 7	▲ 17	▲ 5
	4~6	〃	▲ 4	▲ 16	▲ 10	▲ 5	▲ 6	▲ 1
	7~9	〃	▲ 2	▲ 7	▲ 8	▲ 16	▲ 5	▲ 1
	10~12	〃	▲ 1	▲ 6	▲ 6	▲ 10	▲ 12	▲ 3
30年	1~3	月期見通し	▲ 3	▲ 7	▲ 4	▲ 8	▲ 2	▲ 3

(注)D. I. =「良い」-「悪い」

売上・完工高D. I. の推移

			全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業
18年	10~12	月期	▲ 20	▲ 18	▲ 28	▲ 33	▲ 30	▲ 7
19年	1~3	"	▲ 13	▲ 18	▲ 9	▲ 31	▲ 17	8
	4~6	"	▲ 22	▲ 20	▲ 36	▲ 29	▲ 23	▲ 15
	7~9	"	▲ 27	▲ 31	▲ 34	▲ 35	▲ 28	▲ 14
	10~12	"	▲ 23	▲ 8	▲ 45	▲ 22	▲ 50	▲ 13
20年	1~3	"	▲ 24	▲ 10	▲ 32	▲ 20	▲ 45	▲ 27
	4~6	"	▲ 27	▲ 15	▲ 49	▲ 27	▲ 44	▲ 22
	7~9	"	▲ 35	▲ 23	▲ 50	▲ 38	▲ 50	▲ 28
	10~12	"	▲ 36	▲ 28	▲ 46	▲ 29	▲ 59	▲ 27
21年	1~3	"	▲ 50	▲ 44	▲ 40	▲ 38	▲ 74	▲ 50
	4~6	"	▲ 55	▲ 53	▲ 56	▲ 52	▲ 69	▲ 50
	7~9	"	▲ 49	▲ 53	▲ 36	▲ 38	▲ 57	▲ 50
	10~12	"	▲ 47	▲ 39	▲ 38	▲ 65	▲ 49	▲ 53
22年	1~3	"	▲ 31	▲ 20	▲ 37	▲ 39	▲ 35	▲ 36
	4~6	"	▲ 28	▲ 23	▲ 30	▲ 8	▲ 36	▲ 35
	7~9	"	▲ 30	▲ 26	▲ 38	▲ 19	▲ 31	▲ 33
	10~12	"	▲ 24	▲ 25	▲ 41	▲ 5	▲ 41	▲ 14
23年	1~3	"	▲ 26	▲ 26	▲ 31	▲ 23	▲ 22	▲ 25
	4~6	"	▲ 21	▲ 9	▲ 31	▲ 49	▲ 25	▲ 15
	7~9	"	▲ 23	▲ 27	▲ 29	▲ 23	▲ 46	▲ 7
	10~12	"	▲ 10	▲ 10	▲ 30	▲ 10	▲ 14	3
24年	1~3	"	▲ 8	▲ 18	▲ 17	13	▲ 17	4
	4~6	"	▲ 16	▲ 12	▲ 25	▲ 3	▲ 34	▲ 9
	7~9	"	▲ 15	▲ 14	▲ 26	0	▲ 15	▲ 19
	10~12	"	▲ 14	▲ 16	▲ 5	0	▲ 27	▲ 16
25年	1~3	"	▲ 16	▲ 25	6	▲ 30	▲ 12	▲ 14
	4~6	"	▲ 4	▲ 12	▲ 2	0	▲ 11	3
	7~9	"	2	▲ 14	23	3	▲ 7	7
	10~12	"	11	▲ 6	34	18	16	10
26年	1~3	"	23	6	50	22	45	15
	4~6	"	▲ 5	▲ 15	6	▲ 12	▲ 20	8
	7~9	"	▲ 9	▲ 16	0	▲ 20	▲ 13	▲ 3
	10~12	"	▲ 12	▲ 17	▲ 2	▲ 34	▲ 27	0
27年	1~3	"	▲ 20	▲ 31	19	▲ 37	▲ 31	▲ 20
	4~6	"	▲ 24	▲ 35	▲ 16	▲ 34	▲ 16	▲ 14
	7~9	"	▲ 15	▲ 27	▲ 25	2	▲ 10	▲ 7
	10~12	"	▲ 8	▲ 20	▲ 11	4	▲ 10	3
28年	1~3	"	▲ 10	▲ 27	▲ 5	▲ 21	▲ 17	5
	4~6	"	▲ 24	▲ 25	▲ 10	▲ 26	▲ 33	▲ 25
	7~9	"	▲ 12	▲ 19	5	▲ 26	▲ 37	5
	10~12	"	▲ 7	▲ 11	▲ 1	2	▲ 3	▲ 10
29年	1~3	"	▲ 2	▲ 22	20	▲ 5	9	▲ 1
	4~6	"	6	▲ 7	5	0	11	19
	7~9	"	2	▲ 9	12	▲ 20	25	6
	10~12	"	4	3	2	▲ 2	11	4
30年	1~3	月期見通し	3	3	2	0	6	5

(注)D. I. =「増加」-「減少」

損益D. I. の推移

			全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業
18年	10~12	月期	▲ 23	▲ 16	▲ 32	▲ 19	▲ 42	▲ 19
19年	1~3	"	▲ 19	▲ 12	▲ 32	▲ 35	▲ 30	▲ 3
	4~6	"	▲ 18	▲ 16	▲ 18	▲ 30	▲ 23	▲ 13
	7~9	"	▲ 24	▲ 29	▲ 27	▲ 25	▲ 28	▲ 13
	10~12	"	▲ 31	▲ 31	▲ 38	▲ 21	▲ 58	▲ 13
20年	1~3	"	▲ 29	▲ 25	▲ 36	▲ 29	▲ 40	▲ 23
	4~6	"	▲ 33	▲ 33	▲ 51	▲ 12	▲ 50	▲ 26
	7~9	"	▲ 39	▲ 35	▲ 55	▲ 28	▲ 48	▲ 35
	10~12	"	▲ 46	▲ 37	▲ 67	▲ 41	▲ 53	▲ 42
21年	1~3	"	▲ 41	▲ 41	▲ 51	▲ 23	▲ 53	▲ 31
	4~6	"	▲ 38	▲ 42	▲ 50	▲ 26	▲ 33	▲ 35
	7~9	"	▲ 26	▲ 28	▲ 39	▲ 23	▲ 15	▲ 21
	10~12	"	▲ 26	▲ 18	▲ 30	▲ 32	▲ 15	▲ 35
22年	1~3	"	▲ 20	▲ 11	▲ 32	▲ 20	▲ 17	▲ 27
	4~6	"	▲ 20	▲ 17	▲ 20	3	▲ 25	▲ 32
	7~9	"	▲ 22	▲ 19	▲ 30	▲ 17	▲ 21	▲ 27
	10~12	"	▲ 22	▲ 18	▲ 46	▲ 13	▲ 36	▲ 10
23年	1~3	"	▲ 24	▲ 19	▲ 29	▲ 26	▲ 17	▲ 29
	4~6	"	▲ 15	▲ 8	▲ 31	▲ 34	▲ 12	▲ 10
	7~9	"	▲ 24	▲ 24	▲ 28	▲ 30	▲ 40	▲ 11
	10~12	"	▲ 10	▲ 17	▲ 19	▲ 8	▲ 17	6
24年	1~3	"	▲ 14	▲ 24	▲ 20	0	▲ 19	2
	4~6	"	▲ 16	▲ 15	▲ 33	▲ 7	▲ 12	▲ 16
	7~9	"	▲ 17	▲ 16	▲ 21	▲ 16	▲ 10	▲ 21
	10~12	"	▲ 15	▲ 20	▲ 9	▲ 8	▲ 19	▲ 15
25年	1~3	"	▲ 16	▲ 27	▲ 4	▲ 35	▲ 12	▲ 7
	4~6	"	▲ 9	▲ 18	▲ 10	▲ 9	▲ 14	3
	7~9	"	▲ 5	▲ 9	4	5	▲ 17	▲ 6
	10~12	"	1	▲ 6	16	3	0	1
26年	1~3	"	12	1	43	19	5	7
	4~6	"	▲ 5	▲ 1	8	▲ 15	▲ 31	1
	7~9	"	▲ 11	▲ 11	5	▲ 32	▲ 17	▲ 11
	10~12	"	▲ 11	▲ 10	▲ 6	▲ 28	▲ 25	0
27年	1~3	"	▲ 14	▲ 27	13	▲ 23	▲ 16	▲ 14
	4~6	"	▲ 19	▲ 34	▲ 15	▲ 13	▲ 18	▲ 7
	7~9	"	▲ 13	▲ 25	▲ 24	3	▲ 6	▲ 3
	10~12	"	▲ 4	▲ 11	▲ 2	▲ 11	▲ 5	5
28年	1~3	"	▲ 4	▲ 19	10	▲ 19	▲ 5	5
	4~6	"	▲ 14	▲ 21	7	▲ 13	▲ 19	▲ 19
	7~9	"	▲ 8	▲ 16	2	▲ 7	▲ 16	▲ 3
	10~12	"	▲ 8	▲ 7	▲ 7	▲ 4	▲ 1	▲ 18
29年	1~3	"	▲ 4	▲ 9	17	▲ 4	▲ 15	▲ 8
	4~6	"	2	▲ 5	12	▲ 3	▲ 11	12
	7~9	"	▲ 1	▲ 4	7	▲ 9	5	▲ 2
	10~12	"	▲ 5	▲ 15	▲ 6	▲ 4	9	1
30年	1~3	月期見通し	▲ 5	▲ 10	▲ 14	▲ 2	0	3

(注)D. I. =「好転」-「悪化」

資金繰りD. I. の推移

			全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業
18年	10~12	月期	▲ 13	▲ 9	▲ 13	0	▲ 28	▲ 13
19年	1~3	"	▲ 11	▲ 14	▲ 6	0	▲ 28	▲ 4
	4~6	"	▲ 7	▲ 6	4	▲ 7	▲ 24	▲ 8
	7~9	"	▲ 13	▲ 13	▲ 5	▲ 14	▲ 24	▲ 11
	10~12	"	▲ 16	▲ 12	▲ 19	▲ 5	▲ 35	▲ 9
20年	1~3	"	▲ 18	▲ 14	▲ 23	▲ 8	▲ 25	▲ 17
	4~6	"	▲ 20	▲ 16	▲ 25	▲ 22	▲ 34	▲ 14
	7~9	"	▲ 26	▲ 20	▲ 27	▲ 23	▲ 46	▲ 18
	10~12	"	▲ 24	▲ 22	▲ 31	▲ 20	▲ 33	▲ 18
21年	1~3	"	▲ 21	▲ 24	▲ 8	▲ 14	▲ 39	▲ 17
	4~6	"	▲ 23	▲ 22	▲ 22	▲ 19	▲ 36	▲ 15
	7~9	"	▲ 17	▲ 14	▲ 15	▲ 9	▲ 28	▲ 17
	10~12	"	▲ 17	▲ 12	▲ 12	▲ 15	▲ 29	▲ 20
22年	1~3	"	▲ 16	▲ 7	▲ 19	▲ 10	▲ 34	▲ 15
	4~6	"	▲ 11	▲ 2	▲ 10	▲ 2	▲ 38	▲ 11
	7~9	"	▲ 12	▲ 6	▲ 12	▲ 5	▲ 27	▲ 14
	10~12	"	▲ 9	▲ 5	▲ 5	▲ 10	▲ 25	▲ 7
23年	1~3	"	▲ 13	▲ 2	▲ 23	▲ 5	▲ 20	▲ 19
	4~6	"	▲ 7	▲ 2	▲ 9	▲ 6	▲ 20	▲ 9
	7~9	"	▲ 9	▲ 4	▲ 8	▲ 10	▲ 23	▲ 6
	10~12	"	▲ 10	▲ 10	▲ 16	▲ 7	▲ 20	▲ 2
24年	1~3	"	▲ 10	▲ 8	▲ 9	▲ 3	▲ 22	▲ 7
	4~6	"	▲ 12	▲ 8	▲ 14	▲ 8	▲ 25	▲ 7
	7~9	"	▲ 9	▲ 10	▲ 6	0	▲ 18	▲ 7
	10~12	"	▲ 10	▲ 9	▲ 13	2	▲ 24	▲ 8
25年	1~3	"	▲ 13	▲ 12	▲ 15	▲ 15	▲ 16	▲ 10
	4~6	"	▲ 6	▲ 7	3	5	▲ 20	▲ 6
	7~9	"	▲ 8	▲ 4	▲ 7	▲ 2	▲ 13	▲ 11
	10~12	"	▲ 6	▲ 8	▲ 3	▲ 2	▲ 13	1
26年	1~3	"	1	3	5	0	▲ 5	▲ 2
	4~6	"	▲ 2	▲ 2	▲ 1	▲ 4	▲ 9	2
	7~9	"	▲ 5	▲ 6	7	▲ 4	▲ 18	▲ 4
	10~12	"	▲ 7	▲ 10	▲ 2	▲ 5	▲ 13	▲ 3
27年	1~3	"	▲ 5	▲ 6	2	▲ 2	▲ 9	▲ 7
	4~6	"	▲ 5	▲ 10	0	▲ 3	▲ 11	▲ 2
	7~9	"	▲ 5	▲ 13	3	2	▲ 11	0
	10~12	"	▲ 7	▲ 15	▲ 4	3	▲ 10	▲ 7
28年	1~3	"	▲ 3	▲ 7	▲ 4	▲ 2	▲ 11	1
	4~6	"	▲ 5	▲ 7	8	5	▲ 12	▲ 12
	7~9	"	0	0	7	3	▲ 4	▲ 2
	10~12	"	▲ 2	▲ 5	4	2	▲ 8	▲ 1
29年	1~3	"	▲ 1	2	4	0	▲ 3	▲ 3
	4~6	"	1	▲ 1	20	5	▲ 6	▲ 3
	7~9	"	0	▲ 2	10	▲ 4	▲ 2	▲ 1
	10~12	"	1	3	0	▲ 7	▲ 4	4
30年	1~3	月期見通し	▲ 1	2	▲ 2	▲ 5	▲ 6	3

(注)D. I. =「楽」-「窮屈」

設備投資実施割合の推移

単位：%

			全産業	製造業	建設業	卸売業	小売業	その他産業
18年	10~12	月期	44	50	28	35	44	50
19年	1~3	"	43	50	30	42	41	43
	4~6	"	36	48	20	31	28	40
	7~9	"	42	46	24	38	40	49
	10~12	"	44	58	25	24	42	48
20年	1~3	"	40	50	14	37	38	44
	4~6	"	38	45	11	27	42	45
	7~9	"	43	52	22	33	40	47
	10~12	"	39	49	17	26	29	48
21年	1~3	"	39	55	21	29	32	37
	4~6	"	32	38	14	26	29	37
	7~9	"	34	42	13	25	28	41
	10~12	"	31	40	13	21	27	34
22年	1~3	"	32	43	14	18	27	34
	4~6	"	29	46	16	18	15	28
	7~9	"	32	48	26	23	17	29
	10~12	"	33	35	27	28	19	43
23年	1~3	"	32	45	12	23	27	35
	4~6	"	29	35	13	18	21	38
	7~9	"	33	30	22	43	27	41
	10~12	"	32	35	23	18	23	42
24年	1~3	"	27	30	10	32	27	29
	4~6	"	31	41	18	18	24	36
	7~9	"	37	45	23	26	30	45
	10~12	"	36	42	24	24	34	43
25年	1~3	"	35	44	24	26	37	35
	4~6	"	31	40	24	22	23	34
	7~9	"	36	44	28	29	32	38
	10~12	"	34	39	16	28	36	40
26年	1~3	"	36	43	34	25	44	32
	4~6	"	32	35	27	20	31	36
	7~9	"	34	39	21	17	34	41
	10~12	"	35	44	17	20	36	41
27年	1~3	"	33	40	28	21	26	39
	4~6	"	34	38	25	26	29	41
	7~9	"	34	37	18	15	39	44
	10~12	"	36	39	28	26	38	42
28年	1~3	"	37	42	23	32	43	40
	4~6	"	35	41	28	23	28	41
	7~9	"	40	42	31	30	48	44
	10~12	"	38	45	23	27	35	45
29年	1~3	"	39	46	31	20	44	42
	4~6	"	40	42	26	38	34	48
	7~9	"	38	42	30	32	33	43
	10~12	"	38	44	29	28	40	39
30年	1~3	月期見通し	37	51	20	22	29	41

(注)D. I. =「実施」-「実施しない」

最近の業況や大河ドラマ放映、明治維新150周年関連などに関する主な意見

業種		意見
製造業	食料品	鹿児島県の文化や歴史を生かせるチャンス。人情味あふれる鹿児島弁を広める。行ってみたい！と思わせる。足を運んでもらうと一段と経済効果が持続するような気がする。
		本県の特産品である本格焼酎の出荷量で、宮崎県を下回っている。この機会に鹿児島の焼酎を再度PRしたい。国内だけでなく海外の観光客も取り込みたい。
		明治維新150周年という節目は重要な事だが、あくまでもカンフル剤であるという認識を持つことが大事ではないかと思う。
		官民あげて西郷どんブームを期待する。
		観光業・お土産の分野は期待できるかも知れないが、1年間のスパンで大きな投資は出来ない。
		鹿児島全体に活気が満ちればうれしい。
		現段階では、期待している。実際に関連商品の問い合わせが多くある。ここ数年で発生した自然災害等により、九州の観光分野で厳しい状況が続いている。大河、明治維新150周年を機に九州、鹿児島に目を向けられることは喜ばしい。
	業界的には10年に1度のイベントとなる可能性が高く期待しているが、その後に繋げるPRが必要だと感じる。一過性で終わらない様に企業努力をしなければならない。	
繊維	株価・為替の安定、インバウンドにより安定向上トレンドと思われる。2018年から鹿児島県国体まで、鹿児島県経済にとっては大きなプラス要因。民間・行政一体となった取組強化が必要と思われる。	
機械・金属	現状、金属製品はまともに中国の施策、需要に振り回されている状況。その状況下では、グローバル化への転換が必須。その方向性も、国・県が中小企業への施策として具体的に打ち出せば…と考える。	
	業界および弊社は10月以降(業績が)低迷してきた。加えて資金調達が非常に困難になってきている。今こそ20年に向けて期待できる企業、2019年問題に向けて取り組んでいる企業に投資すべきである。	
建設業	土木	建設業界は休日が少ないという認識が浸透していて、若い人材が目を向けてくれない。公共事業の発注が問題の大部分を占める。官民一体となり、働きやすい業界になり、担い手が集まるようになって欲しい。
	建築	建設業界の現況としては、中央の大手ゼネコンのような業況の好転は感じ難い。むしろ地方の業者は、いろいろな要因により受注難・採算悪化で事業継続に苦しんでいるところが多い。公共工事の発注(内容検討を含む)が増加しないと改善できない。
		「西郷どん」放映による影響については、業種的に特に関連性を感じない。
	総合建設	畜産業の分野で総合優勝を獲得した。畜産関係の設備投資が増えれば建設業にも好影響だと思う。大河ドラマもタイムリーなので、観光だけでなくいろいろな面で盛り上がりを期待する。
その他	日本中から鹿児島県が注目され、観光客の増加、農畜産物をはじめとする特産品の売上げが伸びることが予想される。一過性のものではなく、今後永続的に認知され需要のある施策を打っていく必要があると考える。	
	前期が悪かった分、今期は売上が増加し、業績が良かった。来期は不透明である。「西郷どん」については、あまり期待していない。	

小売業	食料品	県全体で盛り上がるよう、市や県が主たるイベント等を実施、広告した方が良いのでは。そうすることで県内企業も横のつながりが強くなるのではないだろうか。
		今期は西郷どん150周年などの効果で売上げが期待できるが、翌年を見据えた営業活動が必須と考える。
		県全体のアピールになり、集客による経済効果が出るように県を挙げて活動してほしい。
		西郷どんに期待はしているものの、1~2年の観光客の一時的増加では継続性としては期待が薄い。2・3年後は厳しくなるのが現状。
	建設資材	鹿児島のことを全国の人に知ってもらい、国内外から来鹿していただければ、県内景気にとって良いことだと思う。
	自動車	「昔話」「過去の栄光」ではなく、その「鹿児島はこれからも元気」という未来につながっていく好影響に期待する。
		鹿児島県の経済効果を期待している。
県全体企業への活発なアピールを！！		
その他	鹿児島県書店商業組合として「かごんま西郷検定」に取り組んでいる。 西郷さん、明治維新と大隅地域の歴史についてどのように関係していたか詳しく知りたい。関連する情報がなく困っている。	
その他産業	旅館・ホテル	(大河ドラマについて)現状ではまだまだ効果的な事は見えないが、放映開始後は多少なりとも効果が出るのではと期待はしている。
		「篤姫」と同じような効果が期待できる
		18年も観光客増加は確実だが、(観光客を)迎える体制が心配。人員不足などによるクオリティーの低下(接客・案内・教育など)が懸念される。次の機会につなげる為にも大きな課題！
	運輸・通信	ハコ物を作っても意味はない。
		鹿児島への観光客増と県外への発信を期待。
		県外からの観光客の増加に期待している。受け入れ態勢が万全か心配している。
		訪日外国人旅行を好調に受注しており、業績が上方修正できる見通し。
	外食	前回の篤姫同様、売上の増加が期待できるので受け入れ態勢をしっかりとりたいと思う。
		人手不足である。西郷どん放映でお客様は多く来ると思うが、人手不足を解消しなくては、チャンスを逃してしまうので、考え行動する。
		鹿児島県全体の景気回復の為、積極的に取組んでいきたい。
	サービス	(県や市は)簡単に取組めることを通り会や商工会に降ろして欲しい。
		縁のあった鶴岡・会津・長州・土佐・京都などからの来訪を期待したい。宣伝隊を当該地に送る。ブームを起こし、長く続かせる。
		(大河ドラマ放映や明治維新150周年は)地域活性が図れる。県外からの観光客増に期待。
		今までの西郷さん・明治維新と違う視点でのドラマになっていることを期待する。鹿児島の観光産業の向上にも期待する。
		県や市には、放映をきっかけに今以上の観光客に対する受け入れ設備・観光設備の整備を期待したい。
		「西郷どん」の放映により鹿児島県全体が盛り上がり観光など産業が活性化すれば人口流出が防げるのではないかと期待している。人口減は県を衰退させる一方だと思う。若い力を鹿児島県に留める策を県には打って欲しい。
		観光客も増え、経済が活性することに大いに期待する。
鹿児島県の経済活性化に期待している。		
農林水産	当社遊技業界においては、規制強化などで逆風が吹いていて、今後の展望が読めない状況。	
	西郷どん関連の観光客への準備・整備が足りないと思う。 (卵価が下がるとの)予想に反し、酉年にふさわしく卵価も堅調に推移した。鶏肉もむね肉が消費者に支持されるなど良い年となった。	